

International Media Literacy Research Forum
: Second Conference, Promoting Media Literacy
参加報告

FCT メディア・リテラシー研究所
「シニア市民とメディア」研究プロジェクト 田島知之

2008年10月31日、香港の Television and Entertainment Licensing Authority にて International Media Literacy Research Forum: Second Conference, Promoting Media Literacy と題したフォーラムが開催された。FCT から理事として田島が参加したので、ここに報告する。

このフォーラムはイギリスの Office of Communications (Ofcom)、オーストラリアの Australian Communication and Media Authority (ACMA)、カナダの the Canadian Association of Media Education Organisations (CAMEO)、アイルランドの the Dublin Institute of Technology、ニュージーランドの the New Zealand Broadcasting Standards Authority (BSA)、アメリカの National Association for Media Literacy Education (NAMLE) により創設されたものである。今回はイギリスに本部を置く研究所 International Institute of Communications によって毎年開催される、規律機関の国際会議 International Regulators Forum に付随しておこなわれており、約40名の参加者の多くは世界各国から集まった規律機関関係者であった。フォーラムの主な内容は以下の通り。

司会 : アンドレア・ミルウッド・ハーグレイブ
(International Institute of Communications)

14:25—

オープニング : メイジー・チェン

(the Commissioner for Television and Entertainment Licensing, Hong Kong)

14:30—

「メディア・リテラシーとは何か、このフォーラムは何か」

ロビン・ブレイク(Head of Media Literacy, Ofcom)

- ・21世紀の新しいリテラシーとしてのメディア・リテラシーと、その研究モデルについて
- ・Ofcom の定義「メディア・リテラシーとは、多様なコミュニケーションにアクセスし、それを分析し、評価し、つくりだす能力」

15:00—

「アカデミックな視座から—国による文脈の違い」

アリス・リー(Hong Kong Baptist University)

- ・メディアの技術的な側面が重要になっている
- ・メディア・リテラシー教育 1.0 から 2.0 へ (Media Education2.0)
- ・「賢いメディア消費者」から責任あるメディアクリエイターへ

15:15—

「メディア・リテラシーを推進する：規律機関の役割」

オーストラリア：リンダ・カルーソ

(Australian Communication and Media Authority)

ニュージーランド：ドミニク・シーハン

(Broadcasting Standards Authority)

イギリス：ロビン・ブレイク (Ofcom)

シンガポール：エリック・タン (Media Development Authority)

- ・なぜ規律機関にとってメディア・リテラシーが重要なのか
→メディア状況の変容、特にデジタルテクノロジーの発達が大きい
- ・適切な規律／規制とはどのようなものなのかが課題となる
- ・オーディエンスの変容の調査をどのようにおこなうか

16:00— 休憩

16:15—

「メディア・リテラシーの今後の課題（メディア産業の立場から）」

アルヴィン・C・リー (Director, International Relations and Public Policy, Asia Pacific, Time Warner)

チャールズ・モク (Chairman, Internet Society, Hong Kong)

- ・マーケットとしてのオーディエンスは細分化され、メディアへの接し方も変わっている
- ・ブログ等の市民ジャーナリズムのように、新しいメディアにおけるコンテンツ生産は必ずしも従来メディアと同じようなやり方やルール、例えば商業的な動機のもとでおこなわれているとは限らない。メディア・リテラシーではそこをどう考えていくのか。

16 : 45 — ディスカッション

17 : 25 閉会

約3時間という短い時間のなかで、駆け足でメディア・リテラシーの重要性と課題を確認したという印象ではあったが、なかでは「Media Education2.0」という言葉が示すように、特にデジタルテクノロジーの急速な発展とそれにとまなうオーディエンスの変容への強い関心を中心となっていた。現在日本ではケータイ、ネット、ゲームといった新しいメディアと関連してメディア・リテラシーが論じられるようになっているが、本フォーラムでもその傾向は共通していたと言える（日本の場合は、オーディエンスの能動性やその結果つくりだされるコミュニケーションが注目されるとは限らず、今のところ新しいメディアをとにかく排除するという方向に議論が進みがちではあるが）。国によって状況は異なるものの、従来の規律／規制のあり方では急速に変容するメディアをカバーしきれなくなっており、そこにメディア・リテラシーがひとつの解決策を提供するのではないかという、規律機関の立場からの期待がフォーラムを通して感じられた。